

レファレンス・コーナー -- 現代のベトナム -- 政治・経済・社会を知る (ブックシェルフ)

著者	伊藤 えりか
権利	Copyrights 日本貿易振興機構 (ジェトロ) アジア経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) http://www.ide.go.jp
雑誌名	アジ研ワールド・トレンド
巻	159
ページ	39-39
発行年	2008-12
出版者	日本貿易振興機構アジア経済研究所
URL	http://hdl.handle.net/2344/00004874

レファレンス

コーナー

現代のベトナム— 政治・経済・社会 を知る

伊藤えりか

一九八六年にドイモイと呼ばれる経済政策が導入されてから、ベトナムは急速に経済発展を遂げ、毎年八%台の高い経済成長率を達成している。各国からの政府開発援助も多く、二〇〇七年には日本からの援助額は六億ドルを越えた。対ベトナム援助国の中で最も多い。投資先有望国の上位にも入り、国際投資も盛んである。また、近年は日本人にも身近な旅行先となっている。今回はベトナムの政治、経済、社会事情を知るための資料を、最近一〇年ほどの出版物から紹介したい。

ベトナムはベトナム共産党による一党独裁のもと、政治体制は社会主義体制を取っている。白石昌也編『ベトナムの国家機構』（明石書店二〇〇〇年）は国家機構とベトナム共産党との関係、国家机关の組織、立法制度、国会、司法制度、公務員制度や行政改革、地方行政組織、農村組織、国営企業改革など国家の構造を紹介、詳細に解説している。坪

井善明著『ヴェトナム現代政治』（東京大学出版会、二〇〇二年）では、政治史、行政制度と実態に重点が置かれている。

外交政策の分野では、白石昌也編著『ベトナムの対外関係—二十一世紀の挑戦』（暁印書館、二〇〇四年）がベトナムの対外関係を政治面だけでなく、国際経済や経済政策の面からも論じている。中野亜由著『現代ベトナムの政治と外交—国際社会参入への道』（暁印書館、二〇〇六年）は関係諸国への外交政策の推移を概説している。

経済成長を遂げ、法律など制度を整えたベトナムは、一九九五年にASEANに、二〇〇七年にはWTOに正式加盟した。高成長を続けるベトナム経済を複数の著作が、様々な角度から分析・解説している。中臣久著『ベトナム経済の基本構造』（日本評論社、二〇〇二年）では計画経済期から経済体制改革の移行期の特徴を、時期を追って解説、分析している。石川滋・原洋之助編『ヴェトナムの市場経済化』（東洋経済新報社、一九九九年）は日本、ベトナム両国政府の合意で実施された共同研究の成果で、農業・農村開発、財政金融政策、貿易・産業政策、国営企業改革を取り上げ、総合的にベトナムの五カ年計画や市場経済化政策を検証し、提言をしている。白石昌也・竹内郁雄編『ベトナムのドイモイの新展開』（アジア経済研究所、一九九九年）はドイモイと共産党大

会など政治との関係、法治国家への移行など法制度面への取り組み、国防、セクター別企業法、農業、華人政策やASEANの中での位置づけなど、変化のただ中にあるベトナムを総合的角度から丹念に論じている。

石田暁恵・五島文雄編『国際経済参入期のベトナム』（アジア経済研究所、二〇〇四年）は、ベトナムの市場経済化に伴い、各産業セクターや地方行政がどのように改革され、国際経済に対応しているか、国際協力分野も含めて考察している。坂田正三編『二〇一〇年に向けたベトナムの発展戦略—WTO時代の新たな戦略』（アジア経済研究所、二〇〇六年）では、二〇〇六—二〇一〇年の五カ年計画に、党人事を含む政治、経済の両面から焦点を当て、さらに、WTO加盟のプロセスや関連法規の整備、ODAの今後を展望している。産業に関する資料のうち、大野健一・川端望編著『ベトナムの工業化戦略』（日本評論社、二〇〇三年）はJICAとベトナムの国民経済大学の共同研究の中間報告だ。ベトナムの工業化をグローバルイニシアティブや直接投資との関係で論じ、主要な四つの産業の発展過程や問題点にも踏み込んでいる。藤田麻衣編『移行期ベトナムの産業変容—地場企業主導による発展の諸相』（アジア経済研究所、二〇〇六年）は、ベトナムの地場産業を中心に、製造業や都市型工業・農村工業のドイモイ以降の発展や変化を報告している。農業

については、JICAの農業プロジェクトを経験した長憲次が、『市場経済下ベトナムの農業と農村』筑波書房（二〇〇五年）で、南北に長いベトナムの各地域での農業発展の特徴や実態を詳細に解説している。

経済発展に伴い、社会の変化も急速だ。政治・社会史を専攻する坪井善明の『ヴェトナム新時代—豊かさへの模索』（岩波書店、二〇〇八年）は『ヴェトナム—豊かさ』への夜明け（同、一九九四年）の続編で、この二冊から長期に渡る変化をうかがうことができる。皆川一夫『ベトナムのこころ—しなやかさとたたかきの秘密』（めこん、一九九七年）、千葉文人『リアル・ベトナム—改革・開放の新世紀』（明石書店、二〇〇四年）は共に新聞記者の目で捉えた社会の諸相を伝えている。

最後に基礎資料を二点あげておきたい。アジア経済研究所が編集・発行する『アジア動向年報』（年刊）は、一年毎の政治、経済動向のほか、閣僚名、共産党の要職者、主要統計がまとまっており、資料として役立つ統計資料では、ベトナム国家統計局が編集する統計年鑑『Nien gian hoi ke』が一九七〇年版（一九七一年刊）から出版されている。『ベトナム統計年鑑』（ピスタ、ピー・エス）は日越貿易会が日本語訳・編集しているものだ。いずれも目的に応じて役立てられたい。

（いとう えりか／アジア経済研究所図書館）